

- 感想1 あせらず自分の夢を見つけたいと思った。将来何になっているかわからないけど、今がんばっておこうと思う。
- 感想2 「夢をかなえるためには努力を積み重ねないと」と思った。苦勞を乗り越える力、努力を続ける力を身につけていきたい。そう思った。

② 本年度の取り組み

「心のノート」の活用が、一層広がり、充実するために『本校が目指す「心のノート」を活用する生徒の姿』を明確にした。

「心のノート」を活用する生徒の姿	心のノートの用いの方針
<ul style="list-style-type: none"> ○「心のノート」を開く機会が増えた ○「心のノート」を開くと楽しい ○「心のノート」が身近に感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりが自ら学習するための冊子 ○生徒の成長の記録となる冊子 ○学校と家庭との「架け橋」となる冊子

実践4 道徳の授業開きに

1年間に学習する24の内容項目を確認するために、「心のノート（改訂版）」10, 11ページ「24の鍵がある」を使い、その後これまでの生活を意識面と行動面から24の内容項目で振り返るアンケートをとった。

主題名	はじめよう、「道徳」	内容項目	-
資料名	-		
ねらい	道徳の時間にあたっての心構えを確認する。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○CD「心のノート」を聞いて、心にグッとくるところはどこだろう。 ○心のノートの10, 11ページで気になるところはどこだろう。 		

道徳の時間は、心に栄養をつけ、心を磨く時間であり、友達のいろいろな感じ方、考え方を吸収して、自分の考えたことを表現する時間であることを確認した。そして、「**i 表現する ii 共に考える iii 新しいことを知る**」ことを意識して道徳の時間に取り組んでいこうと確認した。

実践5 家庭との連携に

本校では、保護者にも「心のノート」を手にとってもらおうきっかけとして、「心のノート」の記入をしてもらい、授業実践に生かした。

主題名	生命の尊重	内容項目	3-(2)
資料名	妹に 中学道徳2 明日をひらく（東京書籍）		
ねらい	かけがえのない自他の生命の尊さを理解し、よろこびと感謝の気持ちを持って生きようとする心情を育てる。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が生まれたときの様子について、発表しよう。 ○最も強く感じた部分はどこだろう。また、それはどうしてだろう。 ◎「わたし」をはじめとする、家族の妹への言動には、妹の誕生に対するどのような思いが込められているのだろうか。 		

保護者に68ページ『その日のこと』のページに記入をお願いし、導入と終末に使った。導入では、紹介できる生徒が発表した。保護者の記入を読むことで、「生命」を自分のこととして捉える生徒が多かった。クラスメイトが生まれてきたエピソードや親の思いを聞くことで、どの命も大切だという、温かい雰囲気が教室に流れた。

保護者の記入より

その日は朝から晴天でとても気持ちのよい日でした。予定日まで、まだ2週間あり、普段通りの生活をしていました。急な破水で病院に行き、夕方の出産となりました。苦しくて、痛くて、やっと生まれたあなたの産声は小さくよく聞こえず、小さな体はチアノーゼを起こしていました。不安でした。皆が「大丈夫だよ」「よくがんばったね」「かわいい子だ」と声をかけてくれました。気づくと病院には、あなたの祖父母、おじさん、そしてお父さんが、あなたに会えるのをずっと待っていました。

実践6 朝読書や教科等での記録に

○国語科 「握手」を読んで 44ページ「思いやる心は、きっとあたたかい」

感想1 ルロイ修道士に対する「わたし」の感謝の気持ちが素直でいいなあと思う。ルロイ修道士の人を思いやる気持ちもすごいと思う。

感想2 心配させたくなくて、いつものように振る舞うそんな思いやりもいいけど、やっぱり相談してほしいと思う。

○理科 単細胞生物と多細胞生物 69ページ「生命について学んだこと、感じたこと」

感想1 はじめは1つの細胞から、約1年で2～3兆個になってすごいと思った。

感想2 生命はもともと親から始まるのだと思った。親もその親からという長いループがあるんだと思った。

○保健体育科 59ページ「異性を理解し尊重して」

感想1 男と女で考え方が違うから、お互いに尊重しあわないといけない。

感想2 男と女では、体のつくりなどだけがちがうのではなく、考える事も違うことを知りました。

○2年生夏休みの宿題 124～125ページ「私が出会った言葉 心に響いたあのひと言」

(生徒の記入より)

・瞳を閉じれば あなたが まぶたのうらに いることで どれほど強くなれたでしょう
あなたにとって 私も そうでありたい - 「3月9日」レミオロメン

(4) 家庭との連携

道德教育を進めるに当たっては家庭や地域の理解や協力が不可欠である。とりわけ家庭の果たす役割は大きい。昨年度2月の保護者アンケートによれば、「家庭で道德の授業のことを話しますか」という項目について、「あまり話さない」「話さない」という回答は全体の65%と多かった。

その一方で、次のような期待の声も寄せられている。

- ・「自分の考えを発表することは、この先とても大事なことです。道德の時間を通して力をつけてほしいと思います。」
- ・「自分の思いが変わっていく、自分にもこんなことがある。自分にもこんないいところがある。振り返られる時間であってほしいと思います。」

「道德の時間」に限らず、学校の教育活動に家庭が積極的に関わっていくことで、学校と家庭の連携を確かなものにしていけば、生徒の道德性もより豊かにはぐくまれていくのではないかと私たちはそのように考え、以下の実践を行った。



保護者も参加した道德の授業
福沢諭吉も心訓
「世の中で1番尊いことは…」
共に考えました。

① 道德の時間における家庭との連携

実践1 事前調査を実施した道德の授業

保護者に、生徒の誕生したときの様子や状況などを事前を書いてもらい、それをもとに授業を行った。